

一般社団法人岩手県畜産協会の概要



令和7年4月

一般社団法人岩手県畜産協会の概要

1 協会の沿革

平成 15 年 7 月 1 日に社団法人岩手県畜産会（昭和 30 年 12 月 19 日設立認可）と社団法人岩手県家畜畜産物衛生指導協会（昭和 47 年 7 月 11 日設立認可）が統合し、社団法人岩手県畜産協会となる。

平成 25 年 4 月 1 日に一般社団法人岩手県畜産協会（平成 25 年 3 月 21 日移行認可）となる。

2 協会の目的及び事業

(1) 目的

畜産経営改善の指導、飼養管理技術の向上、家畜改良の促進及び自衛防疫の推進を図るとともに、安全かつ良質な畜産物生産のための検査、指導等に関する事業を行い、もって畜産の振興に寄与することを目的とする。

(2) 事業

- ① 畜産経営者に対する生産技術及び畜産経営の改善指導に関する事業
- ② 安全良質な畜産物の生産及び家畜の健康保持に係る知識の普及啓発に関する事業
- ③ 畜産及び家畜衛生に関する調査、研究及び広報並びに情報の収集提供並びに指導者の育成指導に関する事業
- ④ 家畜の改良促進のための家畜人工授精用精液の流通調整、家畜の登録及び共進会等に関する事業
- ⑤ 家畜伝染性疾患の予防及びまん延防止に関する措置等自衛防疫の推進に関する事業
- ⑥ 乳質改善の支援に関する事業
- ⑦ 国、岩手県、中央団体等からの助成事業及び受託事業
- ⑧ 肉用牛肥育経営の安定のための生産者積立金の積立及び補填金の交付
- ⑨ 畜産団体の相互調整及び畜産団体の機能向上に係る支援
- ⑩ その他この法人の目的を達成するために必要な事業

3 会 員

(1) 正会員（19 会員）順不同

岩手県農業協同組合中央会、岩手県信用農業協同組合連合会、全国農業協同組合連合会岩手県本部、全国共済農業協同組合連合会岩手県本部、岩手県農業共済組合、（一社）岩手県農業会議、

（公社）岩手県農業公社、岩手県農業信用基金協会、（公社）岩手県農畜産物価格安定基金協会、

（株）いわちく、岩手県、岩手県市長会、岩手県町村会、（一社）岩手県獣医師会、

岩手県中央家畜衛生協議会、岩手県南家畜衛生推進協議会、岩手県北家畜衛生協議会、

岩手県動物薬品器材協会、岩手県養豚振興会

(2) 準会員（46 会員）

市町村（33 会員）、農業協同組合等（13 会員）

(1) 基本方針

国内屈指の地位を誇る本県の畜産は、県農業産出額の6割強を占めるとともに、裾野の広い関連産業を抱え、地域経済の活性化に大きく寄与している。

一方、家畜飼養者の高齢化等により、畜産経営体の減少傾向等が続いている。

このため、本県においては、国の総合的なTPP等関連政策大綱に基づく畜産クラスター事業をはじめとする各種事業を積極的に活用した生産基盤の維持・強化に向けた取組が進められ、特に肉用牛及び乳用牛の生産構造は、TPP11発効前より小規模から中規模へ、中規模から大規模へと転換が進んでいる。

このように、畜産経営の体質強化を推進している中で、令和4年以降、ロシアによるウクライナ侵攻は長期化し、円安基調等も相まって、穀物価格の高止まり、燃油や生産資材価格の高騰などにより生産費が増え、加えて、肉用牛経営においては、物価高騰等による和牛肉需要が軟調に推移していること等により枝肉及び和子牛価格が低迷するなど、収益性が低下し一層厳しさを増している。

そうした中、農林水産省においては、2024年度補正予算を決定し、「畜産・酪農収益力強化総合プロジェクトの推進」を柱として、その中心は、収益性向上などにつながる、生産基盤の維持・強化に向けた畜産クラスター事業や、増体、肉質に優れた若い繁殖雌牛への牛群の転換を支援するための優良繁殖雌牛更新加速化事業であり、いずれも当協会が担うものである。

こうしたことから、令和7年度は、引き続き、当協会の各種事業において、意欲ある生産者の参加を取りこぼすことのないよう、関係機関・団体等との連携のもと、下記重点事項を柱に掲げ、当協会の総力を挙げて各種事業を推進していく。

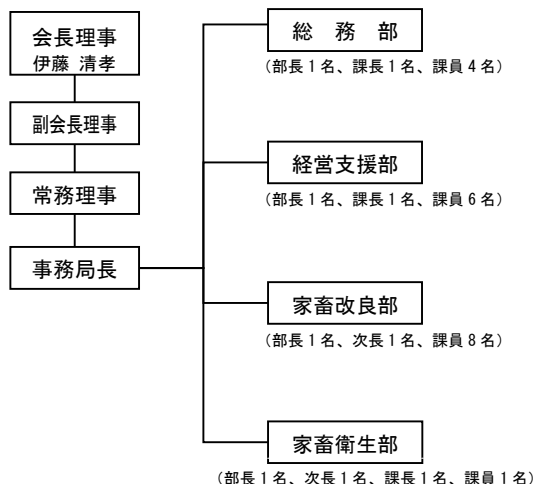
特に令和7年10月に北海道で10年ぶりに開催される「第16回全日本ホルスタイン共進会」に向けて、その準備等を進める県協賛会の設立や県共進会における県出品牛の最終選抜など、計画的に実施していくものとする。

(2) 重点推進事項

- ① 将来を担う経営体を対象とした経営診断・経営技術指導の実施
- ② 地域畜産をけん引する収益性の高い経営体の育成推進
- ③ 肉用牛肥育経営安定対策の的確な実施
- ④ 自衛防疫意識の啓発と地域ぐるみのワクチン接種推進
- ⑤ 家畜人工授精用凍結精液等の安定供給及び適正利用の推進
- ⑥ 登録制度と肉用牛ゲノミック評価を活用した家畜の遺伝的能力の向上
- ⑦ 第16回全日本ホルスタイン共進会に向けた県出品牛の最終選抜と出品対策の推進

5 組織

(令和7年4月)



- ・文書の処理、人事、服務に関すること。
- ・実施事業、その他事業及び法人会計に係る金銭出納、予算決算に関すること。
- ・肉用牛肥育経営の安定対策に関すること。

- ・畜産経営者に対する生産技術、経営診断の指導に関すること。
- ・安全良質な畜産物の生産及び家畜の健康保持に係る知識の普及啓発に関すること。
- ・畜産に関する調査、研究、広報及び情報の収集提供に関すること。
- ・肉用牛の増頭強化、地域の特色ある振興の対策に関すること。

- ・家畜人工授精用精液等の流通調整に関すること。
- ・乳用牛、種豚の登録及び肉用牛のゲノミック評価に関すること
- ・家畜共進会の開催に関すること。
- ・乳用牛群検定事業の情報集積、分析に関すること。

- ・畜産経営者に対する家畜畜産物衛生技術の指導に関すること。
- ・家畜衛生に関する調査、研究、広報及び情報の収集提供に関すること。
- ・家畜伝染性疾患の予防、まん延に関する措置等自衛防疫の推進に関すること。

岩手県主要家畜の飼養戸数・頭羽数等

(単位 戸数：戸、頭(羽)数：頭(千羽)、比率：%)

区分	飼養戸数	飼養頭(羽)数	1戸当たり	対前年比	
			飼養頭(羽)数	飼養戸数	飼養頭(羽)数
乳用牛	692	38,700	55.9	95.1	96.3
肉用牛	3,170	87,900	27.7	92.2	98.8
豚	83	459,100	5,531.3	97.6	96.9
採卵鶏	19	4,991	188.4	100.0	96.2
ブロイラー	301	23,604	78.4	102.0	113.7

(注) 農林水産省大臣官房統計部(令和6年7月9日公表)畜産統計(令和6年2月1日現在)から抜粋

1 乳用牛

飼養戸数は692戸で、前年に比べ4.9%減少した。

飼養頭数は3万8,700頭で、前年に比べ3.7%減少した。

1戸当たり飼養頭数は55.9頭で、前年に比べ0.7頭増加した。

2 肉用牛

飼養戸数は3,170戸で、前年に比べ7.8%減少した。

飼養頭数は8万7,900頭で、前年に比べ1.2%減少した。

1戸当たり飼養頭数は27.7頭で、前年に比べ1.8頭増加した。

3 豚

飼養戸数は83戸で、前年に比べ2.4%減少した。

飼養頭数は45万9,100頭で、前年に比べ3.1%減少した。

1戸当たり飼養頭数は5,531.3頭で、前年に比べ45.2頭減少した。

4 採卵鶏(成鶏めす)

飼養戸数は19戸で、前年に比べ増減なし。

飼養羽数は499万1,000羽で、前年に比べ3.8%減少した。

1戸当たり飼養羽数は18万8,400羽で、前回に比べ2,600羽減少した。

5 ブロイラー

飼養戸数は301戸で、前年に比べ2%増加した。

飼養羽数は2,360万4,000羽で、前年に比べ13.7%増加した。

1戸当たり飼養羽数は7万8,400羽で、前回に比べ8,000羽増加した。

一般社団法人 岩手県畜産協会

〒020-0605 岩手県滝沢市砂込 389 番 7

URL : <http://iwate.lin.gr.jp> E-Mail : info@iwate.lin.gr.jp

役員室・総務部 電話 (019) 694-1300 (代) FAX (019) 694-1305

E-Mail : info@iwate.lin.gr.jp

経営支援部 電話 (019) 694-1300 (代) FAX (019) 694-1305

E-Mail : shien@03chikusankai.or.jp

家畜改良部 電話 (019) 688-3028 (直) FAX (019) 688-3252 (直)

E-Mail : center@03chikusankai.or.jp、touroku@03chikusankai.or.jp

家畜衛生部 電話 (019) 694-1300 (代) FAX (019) 694-1305

E-Mail : eisei@03chikusankai.or.jp